

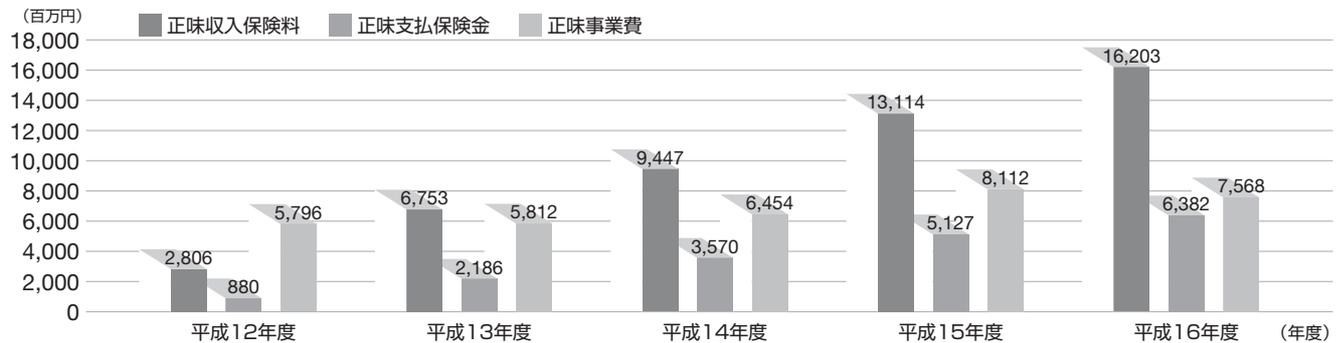


# 第1章 当社の概要

## 1 代表的な経営指標

項目	年度	平成15年度	平成16年度
正味収入保険料		13,114百万円	16,203百万円
正味損害率		42.5%	44.5%
正味事業費率		61.9%	46.7%
保険引受利益		△ 3,344百万円	△ 2,474百万円
経常利益		△ 5,959百万円	△ 4,971百万円
当期純利益		△ 5,967百万円	△ 4,823百万円
ソルベンシー・マージン比率		705.9%	489.6%
総資産額		23,672百万円	24,411百万円
純資産額		12,024百万円	8,574百万円
その他有価証券評価差額		△ 60百万円	△ 187百万円

### 正味収入保険料・正味支払保険金・正味事業費の推移



## 「代表的な経営指標」の用語解説

### 【正味収入保険料】

ご契約者から直接受け取った保険料(元受保険料)に、保険金支払負担の平均化・分散化を図るための他の保険会社との保険契約のやりとり(受再保険料及び出再保険料)を加減した保険料であり、損害保険会社の売上規模を示す指標であります。

### 【正味損害率】

正味収入保険料に対する支払った保険金の割合のことであり、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものであります。具体的には、損益計算書上の「正味支払保険金」に「損害調査費」を加えて、前述の「正味収入保険料」で除した割合を指しております。

### 【正味事業費率】

正味収入保険料に対する保険会社の保険事業上の経費の割合のことであり、正味損害率と同様に保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものであります。具体的には、損益計算書上の「諸手数料及び集金費」に「営業費及び一般管理費」のうち保険引受に係る金額を加えて、「正味収入保険料」で除した割合を指しております。

### 【保険引受利益】

正味収入保険料等の保険引受収益から、保険金・損害調査

費等の保険引受費用と保険引受に係る営業費及び一般管理費を控除し、その他収支を加減したものであり、保険本業における最終的な損益を示すものであります。なお、その他収支は自賠責保険等に係る法人税相当額などであり、

### 【経常利益】

正味収入保険料・利息及び配当金収入・有価証券売却益等の経常収益から、保険金・有価証券売却損・営業費及び一般管理費等の経常費用を控除したものであり、経常的に発生する取引から生じた損益を示すものであります。

### 【当期純利益】

上記の経常利益に不動産動産処分損益及び価格変動準備金繰入額等の特別損益・法人税を加減したものであり、事業年度に発生したすべての取引によって生じた損益を示すものであります。

### 【ソルベンシー・マージン比率】

巨大災害の発生や、保有資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超えて発生しうる危険に対する、資本・準備金等の支払余力の割合を示す指標であります。ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する指標のひとつであり、そ

の数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。

### 【総資産額】

損害保険会社が保有する資産の総額であり、具体的には貸借対照表上の「資産の部合計」であります。損害保険会社の保有する資産規模を示すものであります。

### 【純資産額】

損害保険会社が保有する資産の合計である「総資産額」から、責任準備金等の「負債額」を控除したものが「純資産額」であり、具体的には貸借対照表上の「資本の部合計」であります。損害保険会社の担保力を示すものであります。

### 【その他有価証券評価差額】

「金融商品に係る会計基準(いわゆる時価会計)」により、保有有価証券等については、売買目的、満期保有目的などの保有目的で区分し、時価評価等を行っております。その他有価証券は、売買目的、満期保有目的等に該当しない有価証券であり、この「その他有価証券」の時価評価後の金額と時価評価前の金額との差額(いわゆる評価損益)が、その他有価証券評価差額であります。財務諸表においては、貸借対照表上の資本の部に「株式等評価差額金」として計上しております。

## 2 経営方針

AXA グループは、1817年にフランスで生まれ、世界で約5,000万人のお客様に支持される世界最大級の保険・金融グループです。当社は、損害保険分野において、このAXA グループが掲げるフィナンシャル・プロテクション(あらゆるお客様の変化し続けるニーズに対して、生命保険・損害保険および資産運用の

分野のサービスを一生涯にわたり提供すること)に取り組んでいます。

当社では、このグループ方針を実践するため、次の戦略を掲げております。

### 1 お客様が本当に必要とする質の高い保険商品・サービスを、より適正な保険料で提供してまいります。

当社は、ダイレクト販売による新しい自動車保険商品の開発にあたり、自由競争の激しいヨーロッパ市場で培われたAXA グループの様々な知識・経験・データを効果的に応用いたしました。

そして、日本市場に適したマーケティング戦略に基づいて、お客様が本当に必要とする質の高い保険商品・サービスを、より適正な保険料でご提供してまいりました。昨年はペットプラス、今年は本格的リスク細分型のバイク保険と2つの業界初の特約・保険商品の販売を開始しました。

これからも引き続き特約・オプション等を開発し、商品の質を高めて、お客様のニーズにあう商品をご紹介します。

また、損害調査サービスのネットワークをより拡大し、迅速で的確な事故サポート体制を築いてまいります。

### 2 日本で事業展開するAXA グループのネットワークを最大限に活用し、より多くのお客様に商品を提供してまいります。

これまでにアクサ生命との提携を強めてクロスセリングのための様々な基盤作りを進め、2001年からは自動車保険・普通傷害保険・交通事故傷害保険を販売してまいりました。

また、2004年12月31日より、100%株主であったアクサ・エス・アー(フランス)よりアクサ ジャパン ホールディングの100%子会社になりました。今後はアクサ ジャパン ホールディングのグループ会社として、グループ内のシナジーおよび連携を深めさらにクロスセリングの強化を図ってまいります。

### 3 ダイレクトビジネスの分野での販売ツールの開発およびサービス体制を築き、お客様への利便性を図ってまいります。

当社では、AXA グループのIT資源と当社の開発力をあわせ、マーケティング、募集、契約事務、事故受付・サポート、およびその他業務の高品質なIT化を進め、より一層のお客様の利便性を図ってまいります。

さらに、昨年9月、東京都江戸川区西葛西に東京センターを設立し、福井センターとのコラボレーションにより契約の増加に伴うサービス体制の充実を図ってまいりました。また、この体制をより強化するため、今年6月には高知県高知市に第3のカスタマーサービスセンターの営業を開始いたしました。

AXA グループの一員である当社は、お客様に質の高い商品・サービスをご提供するために、常にお客様からの声を商品開発およびサービスの向上はもとより、業務の効率化などに連結させております。そして、これからもお客様にとって身近で頼れるプロフェッショナルであり続けられるよう常に改善に取り組んでまいります。



## 3 会社の沿革

### 1 AXA グループについて

AXA グループは、1817年に生まれ、約5,000万人のお客さまから信頼されている世界最大級の保険・金融グループです。フィナンシャル・プロテクション(個人顧客、法人顧客など、あらゆる

顧客の絶えず進化し続けるニーズに対して、生命保険、損害保険、資産運用の分野のサービスを一生涯にわたって提供するビジネス)をコアビジネスとしています。

#### <沿革>

1817年	アクサの前身となる保険会社コンパニー・ザシュランス・ミューチュエル・コントロール・ランサンディ設立
1985年	AXA(アクサ)に社名変更
1992年	エクイタブル・ライフ(米)に資本参加、米国へ進出
1994年	100%出資日本法人アクサ生命保険株式会社を設立
1995年	ナショナル・ミューチュアルを買収、オーストラリア、ニュージーランド、香港へ進出
1996年	6月 ニューヨーク証券取引所上場
	11月 元フランス国営保険グループUAPと合併、世界最大級の保険グループへ
1998年	100%出資日本法人アクサ損害保険株式会社(当社)を設立
1999年	ガーディアン・ロイヤル・エクスチェンジ(英)を買収 アクサ・チャイナと中国企業ミンメタルズとの合併企業、アクサミンメタルズを設立
2000年	4月 日本団体生命との提携によりアクサ・ニチダン3社体制での事業を開始
	5月 アンリ・ドゥ・キャストゥルがクロード・ベベアールの後継者としてマネジメント・ボードのチェアマンに就任
	6月 アクサ・フィナンシャルの子会社のアライアンス・キャピタル・マネジメント(米)がサンフォード・バーンスタイン(米)を買収
	7月 サン・ライフ・アンド・プロビシナル・ホールディングス(英)の少数株主持分を買収。100%子会社とする
	8月 アクサ・フィナンシャルはドナルドソン・ラフキン・アンド・ジェンレットをクレディ・スイスに売却
2002年	6月 BNPパリバの子会社バンク・ディレクト(仏)を買収
	7月 AXAアジア・パシフィック・ホールディングズが、ipacセキュリティー・リミテッド(豪)を買収
	12月 IBMと提携、インフラストラクチャー・オン・デマンド・サービスを導入 AXAコーポレート・ソリューションを再編(ラージリスクはAXAコーポレート・ソリューション・アシュランス、再保険はAXAリ、残存責任関連業務はAXAライアビリティーズ・マネジャーズの3部門に再編成)
2003年	9月 AXA グループ、AXAファイナンシャル(米)のマネー(MONY)グループ(米)買収計画を発表
2004年	6月 アクサ保険ホールディング、アクサジャパン ホールディングに社名変更
	7月 AXA ファイナンシャル(米)、マネー(MONY)グループ(米)を買収
	12月 アクサ損害保険、アクサジャパン ホールディングの傘下に
2005年	5月 アクサ生命、アクサグループライフ生命「10月合併」予定を発表

## 2 アクサ損害保険株式会社について

当社は、AXA グループの100%出資により1998年に日本に設立された損害保険会社です。1999年4月には通信販売による「アクサダイレクト総合自動車保険」の商品認可を受け、同年7月より本格的販売を開始しました。2004年12月、アクサ ジャパン ホールディングの100%子会社となり、アクサジャパンの

損害保険分野の担当会社として業務を展開しています。ヨーロッパにおけるダイレクト保険のリーディングカンパニーであるAXAの豊富な経験と技術を活かし、日本のお客さまのニーズに合った商品とサービスに努めております。

### <沿革>

1998年	6月	会社設立登記
	10月	損害保険事業免許取得
	11月	ユニオン・デ・ザシュランス・ド・パリ・イ・ア・エール・デ(UAP保険会社)日本支社の保険業務を包括移転により継承
1999年	4月	「アクサダイレクト総合自動車保険」の商品認可を取得
	7月	「アクサダイレクト総合自動車保険」の全国販売を開始
2001年	5月	当社傷害保険のアクサ生命保険株式会社による販売を開始
	7月	「アクサダイレクト総合自動車保険」の販売でアクサ生命保険株式会社と提携を開始
2002年	2月	ロイヤル・エクスチェンジ・アッシュアランス(REA)日本支店の保険業務を包括移転により継承
	11月	ホームページを全面的に刷新。自動車保険のインターネット割引を開始
2003年	4月	「アクサダイレクト総合自動車保険」の料率・制度を改定し、ノンフリート等級(無事故割増引等級)上限を20等級に拡大
	12月	ホームページでの自動車保険契約手続きのペーパーレス化を実現。純新規契約のインターネット締結も同時に実現
2004年	1月	自動車保険の継続契約者向けに、アシスタンスサービスの種類を増加、内容を充実。全契約者に対し、ライフメールサービス(災害情報の配信と安否確認サービス)の提供を開始
	2月	福井県にカスタマーサービスセンターを開設
	3月	自動車保険の継続契約者向けにもインターネット割引を開始
	4月	全労済など各種共済の引受け開始
	8月	損保業界初の商品、自動車事故による搭乗中のペット(犬・猫)のケガを補償する特約「ペットプラス」を含む特約パッケージ「アクサ安心プラス」の販売開始
	12月	持株会社をアクサ・エス・アーからアクサ ジャパン ホールディングへ変更
2005年	4月	「アクサダイレクト総合自動車保険」の料率・制度を改定し、「車齢」を保険料算出要素として導入 損保業界初の商品、通販による本格的リスク細分型バイク・原付保険を販売開始
	6月	高知県に第3のカスタマーサービスセンターの営業開始



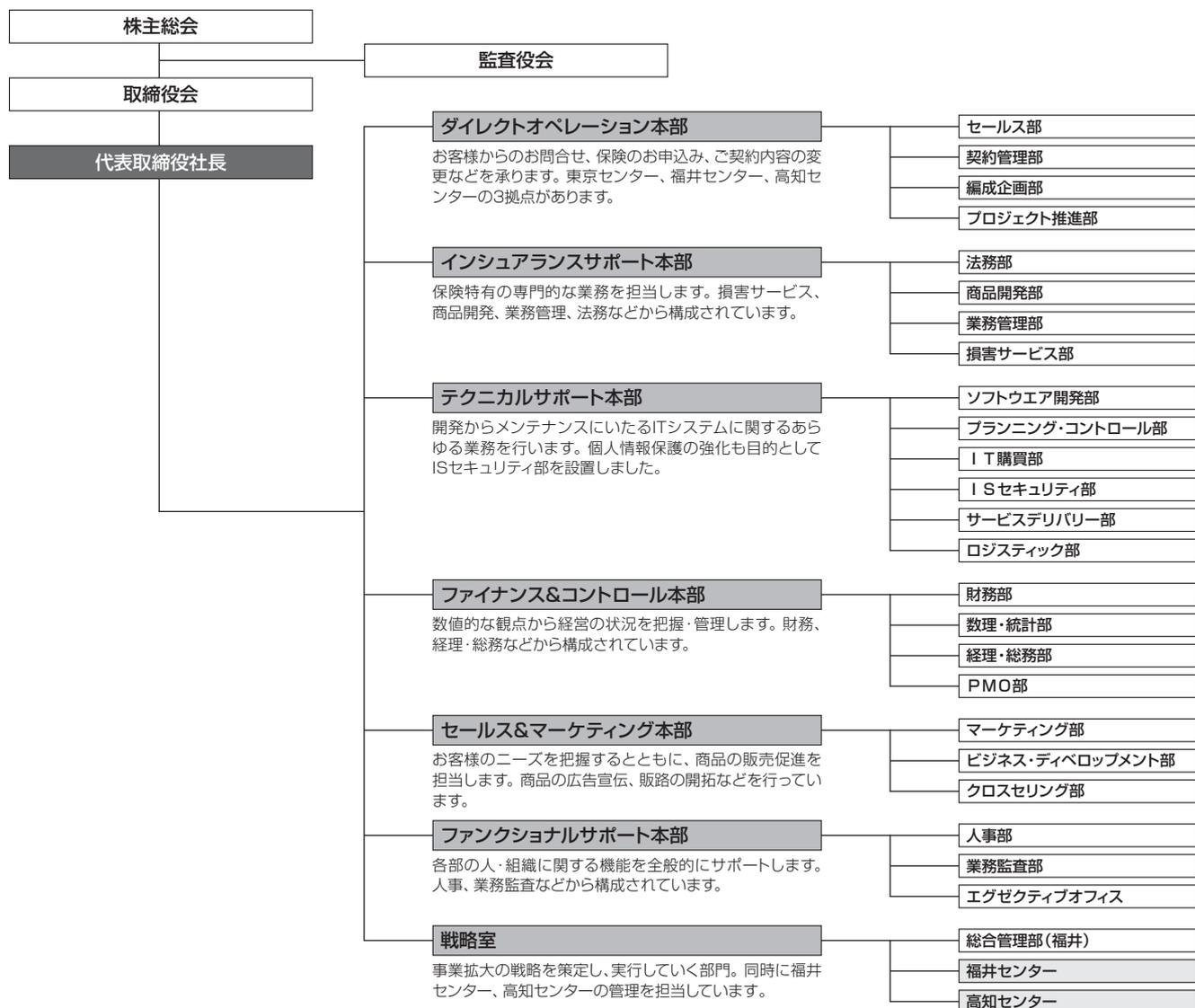
4 経営の組織

当社では、お客様へのサービスの向上と、経営計画に則った事業の拡大を行っていくための適切な組織作りを目指しています。このため、保険募集業務等、お客様への対応に特化したダイレクトオペレーション本部を設置する一方、事故時の対応を担当する損害サービス部をはじめ、損害保険の専門機能を集中したインシュアランスサポート本部を設置し、お客様満足度の向上を図りました。また、昨年の福井センターに続き、平成17年5月には、お客様からのお電話への対応能力を一層充実させるため高知センターを高知県高知市に開設し、カスタマーサービスセンターの拡大を図ると同時に、6月1日の組織変更においては、福井及び高知センターを統括し、さらに戦略的な事業拡大の強化を図る部門として、戦略室を新設しました。

当社では、企業統治の強化は会社経営の上で重要事項と捉え、取締役会を補佐する経営会議を設置しています。また、経営会議の課題別諮問委員会としての役割を果たすコンプライアンス&リスク管理委員会、オペレーショナル・リスク管理委員会、商品開発委員会、プロジェクト管理委員会などを設置し、専門的な検討を行っています。特に昨年同期には個人情報保護法への対応を強化するため、コンプライアンス&リスク管理委員会の下部組織として、個人情報保護法分科会を設置しました。これにより、お客様の個人情報の保護に一層厳しく取り組むとともに、お客様の「真のニーズ」を把握し、それに対するソリューションを提供する「ファイナンシャル・プロテクション」というAXA グループのヴィジョンを実現してまいります。

アクサ損害保険株式会社 組織図

平成17年(2005年)7月1日 現在



## 5 株主・株式の状況

### 1 基本事項

- 定時株主総会開催時期 4月1日から4か月以内
- 決算期 3月31日
- 公告の方法 官報に掲載  
ただし、保険業法の規定により行う公告は、東京都内で発行する産業経済新聞に掲載。  
決算公告については、当社のホームページ  
(<http://www.axa-direct.co.jp/Company/axadirect.html#kessan>)において提供いたします。

### 2 大株主の状況

平成17年(2005年)6月29日 現在

氏名または名称	住所	所有株式数	発行株式総数に対する 所有株式数の割合
アクサ ジャパン ホールディング株式会社	東京都 渋谷区 東 1-2-19	279,430株	100%
計	—	279,430株	100%

### 3 資本金

※過去3年間の推移

年月日	発行済株式数	資本金	摘要
平成14年(2002年)9月20日	224,430株	11,221.5百万円	増資
平成15年(2003年)9月20日	239,430株	11,971.5百万円	増資
平成16年(2004年)3月24日	264,430株	13,221.5百万円	増資
平成16年(2004年)9月30日	279,430株	13,971.5百万円	増資

### 4 最近の社債発行

該当事項はありません。

## 第1章 当社の概要



### 6 取締役及び監査役 平成17年(2005年)6月29日 現在

#### 取締役

取締役会長(非常勤)	フィリップ・ドネ
代表取締役社長	ギ・マルシア
取締役	喜多 暢之
取締役	石田 一夫
取締役(非常勤)	フレデリック・ドゥクルトワ

#### 監査役

常勤監査役	府川 峰夫
監査役(非常勤)	デーブ・ストラットフォード
監査役(非常勤)	ブルーノ・ジャンテ

### 7 社会公共活動

AXA グループでは、企業市民としての責任に対して真剣に取り組んでおり、グループを挙げて社会貢献活動を展開しております。パリ本部内にあるアクサ・アト・クールというボランティア組織が中心となり、世界中のグループ企業のボランティア活動をサポートしています。

日本では、昨年が発生した新潟県中越地震による被害、スマトラ沖地震の津波による被害において、被災者を支援すべくグループ内において募金活動をし、社員・代理店から集められた義捐金を公的機関等に寄付いたしました。

当社独自の社会貢献活動としては、使用済み切手とテレフォンカー

ドなどのプリペイドカードの収集と、難民へ古着を寄贈するボランティアを継続して行っております。使用済み切手とプリペイドカードの収集活動では、寄贈先の慈善団体などの協力を経て、保健医療の行き届かない地域の医療支援に役立てています。また、衣料物資が不足しているアフリカの難民キャンプへ古着等を送るボランティア活動にも多くの社員が参加し、今年は700着を超える衣類を寄贈いたしました。

これからもアクサ損害保険はAXA グループの一員として、社会に貢献できる活動を続けていきたいと考えています。

## 8 アクサダイレクトの広告と情報提供活動



新聞広告



雑誌広告



ホームページによる情報提供：ホームページでは、自動車保険の見積りから契約締結まで完了させることができるほか、補償内容の説明、会社情報などさまざまな情報提供を行なうとともに、お客様個人の専用ページ(マイ・アクサファイル)もご用意しております。



TVCM



商品パンフレット



サービスガイド



ディスクロージャー資料

商品および企業情報：自動車保険の資料請求やお見積りを依頼されたお客様には、商品パンフレットと重要事項説明書を、ご契約された方には約款のほか、事故や故障の際のサービス内容について記載したサービスガイドを送付し、お客様が常に適切に情報を得られる体制作りをしております。このほかに、会社の業績や経営についての情報提供としてディスクロージャー資料を毎年編纂しております。